

茨歯発 第300号
令和4年10月11日

茨城県歯科衛生士会 会長 様

公益社団法人 茨城県歯科医師会
会長 榎 正幸
(印章省略)

「生活習慣病・タバコ対策歯科研修会」の開催について

本会の事業推進については、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記のとおり標記の研修会を開催しますので、ご案内いたします。

第1部の生活習慣病歯科対策研修会の講師は、日立健康管理センタ センタ長 中川 徹先生です。中川先生は、「はらすまダイエット（はらをスマートにするダイエット）」の提案者で、メタボ対策に大きな成果を上げておられます。今回は歯科健診と治療勧告による生活習慣病改善や、「腸活」についてご講演いただきます。

第2部のタバコ対策研修会の講師は、国立保健医療科学院 上席主任研究官 稲葉 洋平先生です。稲葉先生はタバコ製品、喫煙・受動喫煙者の実態について研究をされています。

今回は、タバコ製品の成分分析とヒトへの健康影響についてご講演いただきます。

どなたでもご参加いただけますので、ご周知のうえ、貴会関係者の出席について、特段のご配慮をいただきたくお願い申し上げます。

記

1. 日 時 令和4年12月1日（木）16時～18時45分
2. 開催方法 Web（Webex）によるオンライン開催
3. 内 容 第1部 生活習慣病対策研修会（16:00～17:15）
演題「**歯科との連携による生活習慣病改善**」別添要旨参照
日立健康管理センタ センタ長 中川 徹 先生
第2部 タバコ対策研修会 （17:25～18:45）
演題「**タバコ製品の成分分析とヒトへの健康影響について**
～加熱式タバコとは？～」別添要旨参照
国立保健医療科学院 上席主任研究官 稲葉 洋平 先生
4. 受講料 無料
5. 申込方法 下記URLまたはQRコードから『申込フォーム』で、11月21日（月）までにお申し込みください。また、茨歯会HPにこちらの案内を掲載しますので、そこから読み取ることができます。後日、登録いただいたアドレスに受講の案内メールを送信します。

URL <https://forms.gle/AKLmd8HAfNSTafC26>



歯科との連携による生活習慣病改善

株式会社日立製作所日立健康管理センタ
センタ長 中川 徹

産業歯科保健は、歯科特殊健康診断以外法的義務はなく遅れており、むし歯・歯周病の罹患率も非常に高く、健康寿命の延伸にはこの時期での予防対策が非常に大切になる。日立歯科医師会様からご提案をいただき10年前から企業における「歯科健診の重要性」や「口腔の健康と全身疾患の関係」など、積極的に啓発活動を実施しているが、なかなか広がらない状態であった。そこで、日立歯科医師会様と共同で『ひたち予防歯科推進委員会』を立ち上げて以下のような活動を推進した。

- 1) 日立歯科医師会が進めている産業歯科保健に基づき日立健康管理センタで歯科健診を取り入れた。
- 2) 健康管理センタでの歯科健診結果、重度の要治療対象者に治療勧告を行い、日立歯科医師会指定登録歯科医院へ紹介するシステムを確立した。
- 3) 各歯科医院で治療を行い、一年後の人間ドックで健康診断結果を検証した。
- 4) さらに、歯科健診から受診勧奨の有用性、口腔状態および歯周病病態の改善による全身健康改善のエビデンスや企業における歯科健診の重要性に繋がるエビデンスを確保検証した。

今回はこれまでの経緯と研究成果に関して発表する。

さらに生活習慣病関連のトピックスとして「腸活」を取り上げる。同じカロリーの食品を食べても、太る人と太らない人がおられるが、腸内細菌叢の違いが影響している可能性が高い。

ヒトの腸内には重量1kg、100兆個、1000種類の腸内細菌が共生し、宿主固有の細菌叢（フローラ：お花畑）は一人ひとりみな違う。その細菌叢の遺伝学的解析、および腸管内容物のメタボローム解析により、未知の腸内細菌とその代謝産物、消化された食物、腸管に分泌された消化酵素や胆汁酸などの経時的情報が網羅的に得られるようになり、腸内細菌、腸管細胞、腸管内容物は相互に影響をしながら腸管腔内に1つの環境を形成している。

今回のトピックスとして腸活の本当のところを発表する。

なかがわ とおる

中川 徹

日立健康管理センタ・センタ長



【略歴】

平成元年3月	産業医科大学医学部卒業
平成5年8月	日本医学放射線学会専門医
平成8年4月	株式会社日立製作所日立健康管理センタ産業医 就任
平成11年8月	同・放射線診断科主任医長 就任
平成24年4月	同・副センタ長 就任
令和4年4月	同・センタ長 就任 (現在に至る)

【所属学会】

日本糖尿病学会
日本医学放射線学会
日本肥満学会

【その他 著書】

ムリせずやせる！はらすまダイエット（河出書房新書）
はらすまダイエット100kcalカードで脱メタボ！（小学館）
脱メタボ大作戦（東京法規出版）

タバコ製品の成分分析とヒトへの健康影響について ～加熱式タバコとは？～

国立保健医療科学院 生活環境研究部
上席主任研究官 稲葉 洋平

現在、喫煙者における加熱式タバコの使用率は25%越えると報告されている。特に20-40代の若い世代での使用率が高い。加熱式タバコは、古くは平成元年あたりから販売開始されていたが、有害化学物質の低減、装置の携帯性が悪いため普及はしていなかった。しかし、2014年に販売開始されたIQOSが起点となり、この数年間で普及が進んだ。加熱式タバコは、外部装置を使用してタバコ葉を200-350℃で加熱し、発生するエアロゾルを吸引する装置である。これに対して紙巻タバコは、装置に頼らずに、タバコ葉の燃焼で喫煙する。最近、「電子タバコ」という名称を聞く機会が増えている。この電子タバコは、タバコ葉を使用しておらず、香料が添加されたプロピレングリコールを装置で蒸気化、吸引する製品である。日本では、タバコ事業法の対象となっていない。そのためにニコチン入りを販売することができないため、普及はしていない。

本講演では、加熱式タバコの有害化学物質がタバコ産業の報告にあるように有害化学物質が調査結果を報告し、紙巻タバコと比較した。その結果、主流煙のニコチン量は、加熱式タバコと紙巻タバコに大きな差は確認されなかった。加熱式タバコも紙巻タバコと同様にニコチンの摂取は可能であると考えられた。次に燃焼のマーカである一酸化炭素については加熱式タバコの含有量が低減されていたが、他のガス成分に関しては、紙巻タバコと同等の含有量を示す化合物も確認された。我々の研究結果によると、加熱式タバコとは有害化学物質量は低減されているが、有害化学物質数が大きく低減されてはいなかった。

そのため、加熱式タバコ喫煙者は、依然として有害化学物質の複合曝露は継続している。本講演では、加熱式タバコによる受動喫煙の曝露状況についても報告する。

いなば ようへい

稲葉 洋平

(水産学博士)

国立保健医療科学院 上席主任研究官



【略歴】

昭和50年生。

平成10年に東京薬科大学生命科学部を卒業

平成15年に東京水産大学水産学研究科食品生産学専攻を修了（博士取得）

平成15年産業技術研究所バイオニクス研究センター 特別研究員

平成20年国立保健医療科学院 生活環境研究部 主任研究官

令和2年 国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官

【主な著書】

1. 稲葉洋平. 第2節 タバコ煙の成分と生体影響のメカニズム 1. タバコ煙の成分・喫煙の健康影響に関する検討会編「喫煙と健康 -喫煙の健康影響に関する検討会報告書-」；2016:p55-81.
2. 稲葉洋平. タバコの煙の健康影響と受動喫煙のエビデンス 公衆衛生情報 2020;49:8-9.
3. 稲葉洋平、牛山明. 加熱式タバコ製品の有害性. 保健医療科学. 2020;69:144-152.
4. 戸次加奈江、稲葉洋平、牛山明. 喫煙による室内汚染-三次喫煙という新たな課題- 保健医療科学. 2020;69:138-143.

【現在の研究】

現在は、WHO タバコ研究室ネットワークの運営委員として、タバコ成分の分析法の開発を行い、標準作業手順書の作成を行なっている。また、厚生労働科学研究費では、「加熱式タバコ」の有害性およびバイオマーカー分析による健康影響評価を行なっている。